

期費用の負担なしで設置できる「0円ソーラー」に対する補助を開始した。「共同購入事業」の設置された実績は、令和元年度は71件、令和2年度は141件。「0円ソーラー」の令和2年度の実績は154件で、予算積算上は300件を予定していた。実績が約半分だったのは、新型コロナウイルス感染症の影響があったもの。具体的には、「0円ソーラー」による設置に対する補助の受付開始は、4月下旬頃を予定したが、コロナの影響で1か月半程度、開始が遅れたことによるもの。また、「0円ソーラー」の登録事業者は15者あったが、新型コロナウイルス感染症の影響で思うような営業ができなかったとのことで、15者のうち8者は1件も補助の申請がなかった。

【石川質問】 農地に太陽光発電を設置し、営農を続けながら太陽光による発電も行う「ソーラーシェアリング」であれば、森林伐採といったこともなく、元々の土地の利用形態を変えずに、太陽光発電の導入も促進が期待される。現在、県内ではどのくらい実績があるのか？

【農地課長】 ソーラーシェアリングは、農地法の一時転用許可が必要であり、制度化された平成25年度からこれまでの許可件数は、令和3年8月末時点で、63件、令和2年度の実績は12件。

【石川質問】 「ソーラーシェアリング」の課題と、推進に向けてどのような取組みを行っているのか伺いたい。

【エネルギー課長】 「ソーラーシェアリング」は、農業経営の改善、荒廃農地の再生利用、再生可能エネルギーの導入拡大、災害時の非常用電源としての活用が期待できるが、普及に向けては、知名度が低く、仕組みやメリットが十分に理解されていないことや、導入に当たっての手続が煩雑なことが課題であると考えている。このため、ホームページで導入事例の紹介等を行っているほか、設置に必要な手續から工事等までを登録事業者が一貫して支援する「かながわソーラーシェアリングバンク」を運用し、手續面での導入支援を行っている。また、売電を目的とした導入だと、その買取に伴う国民負担が増大することなどから、自家消費型の「ソーラーシェアリング」を補助の対象とし、財政面での導入支援を行っている。

【農地課長】 農業部門では、日照や支柱が農作業の邪魔になることを気にされるといった部分もある。農地法の一時転用手続きの制度や優良事例について、県ホームページのほか、市町村農業委員会などの農業関係機関を通じて、周知を行っている。

【石川質問】 最後に、再生可能エネルギーの導入促進について、今後、どのように取り組んでいくのか、局長に伺いたい。

【産業労働局長】 国は、脱炭素社会の実現に向けて、2030年度に、2013年度比で温室効果ガスを46%削減する目標を打ち出し、第6次エネルギー基本計画において、2030年度の電源構成で、再生可能エネルギーを、総発電電力量のうち36～38%程度見込むとした。また、企業関係では、欧米のグローバル企業に続き、日本でも、自社だけでなくサプライチェーン全体で脱炭素を目指そうという動きが広がりを見せ始め、取組が遅れる企業はサプライチェーンから外されるおそれが生じるなど、今後増え、再生可能エネルギーを導入する取組は加速するものと考えられる。特に太陽光発電は、風力発電等と比較して、スピーディーに導入できることから、改めてその普及が期待されている。また太陽光発電は、本県での導入ポテンシャルが高いものである。こうしたことから、住宅用は「共同購入事業」と「0円ソーラー」により、事業所用は、「自家消費型補助」等により導入を促進し、再生可能エネルギーの導入拡大に向けて全力で取り組んでいきたいと考えている。



三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間開通の成果と課題

通学路の安全対策！

【石川質問】 三浦縦貫道路に並行する国道134号線は、特に休日において渋滞が著しいことで知られていますが、三浦縦貫道路が開通したことで交通状況に変化があったのでしょうか？

【竹内道路整備課長】 国道134号の交通状況の変化ですが、昨年の開通前後の国のデータを比較しますと、慢性的な渋滞が発生していた林交差点周辺では、休日の午前に国道134号を走行する車両速度が時速10キロ↑

メートルほど向上しており、三浦市の初声小学校入り口交差点においても、休日の午後で走行速度が時速10キロメートル程度向上しております。三浦縦貫道路の昨年の開通は、国道134号の交通混雑の緩和に寄与しているものと考えているところでございます。

【石川質問】 渋滞が周辺道路において緩和、軽減されるなど、地域経済の活性化に資するものと期待しておりますが、安全・安心といった観点から、防災面で期待する効果があればお伺いいたします。

【竹内課長】 三浦縦貫道路の海側には、並行して国道134号がございます。国道134号は緊急輸送道路となっておりますが、林交差点周辺などは地盤が低いことから、津波による浸水が想定されております。万一、国道134号の機能に支障が出た場合は、山側に整備した三浦縦貫道路が代替路としてその機能を担うことになり、災害対応力の強化が図られたものと考えているところでございます。

【石川質問】 災害対応力の強化、また渋滞緩和等、非常に効果がある一方で、開通区間が連絡しました市道14号、これは著しく交通量が増えました。また、先ほどの答弁で、休日の午後にはスピードが上がったという話もありますが、ここは通学路であって、地元の市民からも心配の声が上がっております。折しも千葉県八街市の通学中の交通事故を受けた初声小学校の総点検が7月に実施されまして、私も立ち会わせていただきました。開通に伴い、状況が変化した市道14号の通学路の点検結果と対策についてどうなっていますか？

【竹内課長】 市道14号の通学路の総点検結果は、対策必要箇所を2か所選定されたということを三浦市の方から伺っています。一つは初声小学校校門前で、もう一つは初声中学校付近の交差点のことでした。今後の対策ですが、初声小学校校門前では、横断歩道が

長い直線区間の中にあることから、横断歩道手前の車道部にカラー化した滑り止め舗装を行うとともに、通行車両の減速を促すための路肩部にポールを設置する予定と三浦市から聞いております。また、初声中学校付近の交差点では、横断歩行者が多いことから、横断歩道の設置を検討しているということを県警察本部から聞いております。

【石川質問】 新設された道路によって周辺環境は本当に大きく変わりますので、そういったことも御留意いただき、引き続き关心を持っていただければと思っております。昨年の開通時には、まだ国道134号の横須賀市林から三浦方面へ行くための下り線への接続道路が未開通ということありました。早く開通することを望んでいますが、この開通の見通しについてお伺いいたします。

【竹内課長】 横須賀市林の下り本線への接続道路につきましては、掘り割り構造となっておりますが、掘削工事は既に完了しております。現在、擁壁などの工事を行っているところです。引き続き、仕上げとなる舗装や案内標識などの工事を進め、令和3年度内に接続道路が開通する予定としております。

【石川要望】 多様な交流を支える道路網の整備は、その地域の利便性の向上や交通渋滞の緩和ひいては観光の振興や地域活性化など、地域経済を支える大変重要な取組です。



来年1月、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放映開始！

県内広域的プロモーションを展開

2022年1月9日より、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が始まります。日銀の試算によれば、県内経済波及効果が260億円にも上ります。

ドラマは、源頼朝の旗揚げから鎌倉幕府の成立を経て、北条義時が権力を手中に収めるまでの過程を描く、とされており、その舞台となる神奈川県には鎌倉だけでなく、横須賀や三浦、真鶴、湯河原など多くのゆかりの地があります。

県は、これまで、ゆかりの地が所在する14市町と連携して協議会を設置し、約100か所の観光資源を発掘しました。鎌倉殿の13人の一人である和田義盛は、三浦市初声町を拠点として、舞台俳優の横田栄司さんが演じる予定です。

脚本家三谷幸喜さんの言葉によると、義盛は気は優しくて力持ち、みんなから愛される西郷さんみたいなまっすぐな男。でも抜けているところがあるイジ↑